

開催地名	長崎県 佐世保市
開催日時	令和6年7月19日(金)10:00~12:00
開催場所	佐世保市環境センター
語り部	石川 恵美子(東京都町田市)
参加者	40名(佐世保市職員 25名、長崎県内各市廃棄物処理担当課長 15名)
開催経緯	災害廃棄物に関して、佐世保市では災害事例が少ないため実務経験に乏しく、災害廃棄物の処理について、初動対応を含めた一連の実務を迅速かつ適正に実施できるかが課題である。その課題解決に向けて、災害発生時の連絡体制・住民への周知・仮置き場の選定及び設置・処理に至るまでの一連の流れを官民連携により構築したいと考えており、行政職員研修の一環として講演を希望したもの。
内容	<p>■ はじめに</p> <p>講演者の石川恵美子氏は、東京都町田市の職員として防災行政に携わる一方で、災害支援の現場にも多数関わってきた。特に、東日本大震災、西日本豪雨、熊本地震などの被災地支援に従事し、防災の最前線で学んだ教訓を多くの人に伝える活動を行っている。今回の講演では、所属する町田市職員が被災地支援として災害廃棄物処理を行った際の課題と対応、そして地域防災の重要性について詳しく語られた。</p> <p>石川氏は「防災とは、被災後の復旧作業を見据えて備えることも大切である」と述べ、災害発生直後の対応に加え、復旧・復興の視点を持つことの重要性を強調した。また、災害が発生した際に自治体がどのように対応するのかを知り、個人や地域ができることを事前に考えておく必要があると訴えた。</p> <p>■ 被災地支援の経験談</p> <p>石川氏が所属する町田市職員が被災地支援を行った令和元年房総半島台風では、千葉県を中心に甚大な被害が発生した。強風による屋根の損壊や瓦の飛散が目立ち、停電が長期化した地域では生活に大きな支障が出た。特に、破損した家屋から出た大量の建築廃材の処理が大きな課題となった。また、同様に町田市職員が被災地支援を行った令和元年東日本台風では、長野県千曲川の氾濫により広範囲で浸水被害が発生した。被災地では泥にまみれた家財や畳の処理が困難を極め、災害廃棄物の仮置き場を確保し、適切に分別することが求められた。現場では、住民と自治体が協力しながら対応を進めることが重要であると実感したという。</p> <p>災害後、被災地では廃棄物の処理が大きな課題となる。被害の種類によって発生する廃棄物は異なり、それぞれ適切な処理方法が求められる。風害による被災地では、屋根の瓦や木材が大量に発生し、水害による被災地では、泥に埋もれた家具や畳の処理が困難となる。分別作業が滞ると、処理場への搬送が遅れ、復旧が長期化するため、自治体ごとに事前の計画が必要である。</p> <p>町田市では、災害時相互応援協定に基づき、千葉県や長野県に職員を派遣した。現場では、分別の知識を持つ職員とそうでない職員が協力しながら作業を進めたが、事前の研修の重要性を痛感したという。特に、災害直後の避難所では、ゴミの管理が行き届かない状況が続いたが、避難所ごとに分別ルールを設けることで環境改善につなげることができた。住民同士の協力が、避難所運営の円滑化において非常に大きな役割を果たした。</p> <p>■ まとめ</p> <p>石川氏は、町田市職員へのインタビューや自身の災害対応などを通して今後の防災対策として以下の点を強調した。</p> <p>まず、災害廃棄物処理の計画を事前に立てておくことが必要である。被災後の廃棄物の処理が滞ると、復旧が大幅に遅れるため、仮置き場の設置場所や分別方法を事前に決めておくことが求められる。風害と水害では発生する廃棄物が異なるため、それぞれの対応を考慮した計画が重要である。</p> <p>また、迅速な避難行動を最優先とすることが不可欠である。台風や豪雨災害では、避難のタイミングが遅れると命に関わるため、自治体の発表を待つのではなく、危険を感じたら自主的に避難する意識を持つべきである。避難所に持参する物品には、生活に必要なものだけでなく、衛生用品やゴミ袋などの環境維持に関わるものも含めることが望ましい。</p>

さらに、地域防災の重要性を再認識する必要がある。近隣住民との協力が災害対応のカギとなるため、日頃から地域とのつながりを意識し、避難所の運営に住民が積極的に関わるのが理想的である。防災訓練に参加し、地域の防災計画を共有することで、災害発生時の混乱を最小限に抑えることができる。

防災教育の充実も欠かせない。防災訓練を通じて、避難行動や災害後の対応を学ぶことが重要であり、特に子どもから高齢者まで幅広い世代が防災知識を共有することが必要である。学校や地域での防災教育を推進し、実践的な避難訓練を行うことで、いざというときに適切な行動を取ることができるようになる。

最後に、防災意識を日常生活に取り入れることが求められる。家庭での備蓄、家具の固定、避難経路の確認を習慣化し、家族や地域全体での備えを考えることが大切である。石川氏は、「災害が発生した後の対応を考えながら備えることが、真の防災である」と述べ、日常の中で防災意識を高めていくことの重要性を強調し、講演を締めくくった。



開催地より

実際に被災地で災害廃棄物対応等に従事された町田市職員の経験談を、現場の写真も交えて講演いただき、本市職員の防災意識醸成に大きく繋がったと考える。講演を受けて、災害廃棄物処理に備えた、より具体的な対応等の検証作業を行いたい。